# １　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業所番号 | 0370800229 | | |
| 法人名 | 医療法人社団敬和会 | | |
| 事業所名 | グループホームとおの | | |
| 所在地 | 岩手県遠野市松崎町白岩１３－３０－８ | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年12月9日 | 評価結果市町村受理日 | 平成27年5月12日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

| | |
|---|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigyosyoCd=0370800229-00&PrefCd=03&VersionCd=022 |

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | |
|---|---|
| 評価機関名 | 公益財団法人いきいき岩手支援財団 |
| 所在地 | 岩手県盛岡市本町通3丁目19-1　岩手県福祉総合相談センター内 |
| 訪問調査日 | 平成27年2月18日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様の個々に出来ること、好むことを把握するようにし、そこの部分を生かして生活を共にできるように関わっております。そのことで、利用者様も生き生きとしていただきたいと思っています。ホーム周囲の環境も良く、保育園、福祉の里が近所にあり、又、自治会館もすぐ目の前にあります。地域サロンにも参加させていただいたりと地域の方々との交流も大事にしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所開所以来、管理者が異動することなく、「グループホームとおの」で勤務していることで、家族からの厚い信頼を得ている。保育園や、サロン活動（かかしの会）、近隣との交流も継続して行われており、利用者の生活の中で、よい刺激となっている。雪に覆われた田園風景の中で、お正月には昔ながらの餅つきが行われ、3月の節句には遠野に伝わる型を使った雛まんじゅうを作る予定となっている。伝統を継承した生活が続けられている。タブレット（電子端末）の導入により、その場で記録し、全ての職員が確認した事がチェックできることで、情報の共有に努めている。2匹の猫が利用者や、職員の癒しとなり、和やかな笑い声が聞かれるグループホームである。

## Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25） | | 1. ほぼ全ての利用者の |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいの |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいの |
| | | | 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38） | ○ | 1. 毎日ある |
| | | | 2. 数日に1回程度ある |
| | | | 3. たまにある |
| | | | 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | ○ | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19） | | 1. ほぼ全ての家族と |
| | | ○ | 2. 家族の2/3くらいと |
| | | | 3. 家族の1/3くらいと |
| | | | 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20） | | 1. ほぼ毎日のように |
| | | | 2. 数日に1回程度 |
| | | ○ | 3. たまに |
| | | | 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4） | | 1. 大いに増えている |
| | | ○ | 2. 少しずつ増えている |
| | | | 3. あまり増えていない |
| | | | 4. 全くいない |
| 66 | 職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12） | ○ | 1. ほぼ全ての職員が |
| | | | 2. 職員の2/3くらいが |
| | | | 3. 職員の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | | 1. ほぼ全ての家族等が |
| | | ○ | 2. 家族等の2/3くらいが |
| | | | 3. 家族等の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどできていない |

## 自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅰ.理念に基づく運営** | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域の中にある施設ではなく、地域の中で生かしていけるホームを目指して、ご近所の方々や畑に来る身近な方々との交流を大事にしている。そして、中に入っていただけるような関係作りに努めている。今年からは地域に向けて、広報誌も作成。もっと自分達の事を知ってもらうようにしている。 | 「その人らしさを大切に　明るく共に笑顔で過ごせるやすらぎの家」がホームの理念となっており、廊下に、温かみのある書で掲示している。広報誌を7区全世帯に配布し、地域への周知が、一層高められるよう取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 日常の散歩時の挨拶から会話したりしている。地域の行事には見学、参加させていただいている。又、サロン活動（かかしの会）に参加し、交流させていただいている。 | 地域の7月のお祭りの時期は、山車の花作りを行ったりしている。ハロウィン（10月）には、保育園児が踊りを見せに来ている。お返しに入居者も仮装し、お菓子を届けている。サロン活動（かかしの会）の代表は、運営推進会議に参加し、またサロン活動に利用者も参加している。地域との交流に広がりが見られている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 市内グループホーム事業所と地域包括支援センターとの共同で、1月から認知症カフェの開催予定。どのようになるかは、開催してからになるが、認知症の分野で、何か役にたっていきたい。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 職員の挨拶についてに評価協力をしていただき、評価結果を報告。改善点も指摘しただいている。又、地域の方々との行事の進め方に関しても意見を聞きながらしている。報告が中心となり、日常のサービスに関しての意見交換が出来るように進めていきたい。 | 運営推進会議には、自治会長や民生委員、同じ行政区にある「かかしの会」、利用者家族、市包括支援センターの方々が参加し行われている。利用者の状況や行事の取り組みについて報告し、意見をいただいたり、職員の接遇や対応等について評価を頂き、改善に繋げている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 担当課がある遠野健康福祉の里はすぐそばにあるので、相談に行きやすく、担当の方も話しやすく、意見お話してくれる。今回、認知症カフェの件に関しても、相談し、一緒に考えてくれている。 | 遠野健康福祉の里にある担当課は、歩いて行ける距離にあり、報告や相談のある時や、利用者の散歩であったりと、よく出かけている。また、市内グループホーム6ヶ所共同で行われる「認知症カフェ」の立ち上げに関しての助言を受けている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 外部研修の日程が合わず、参加できていない。身体拘束、動きを制限したりするような行為はしてはいけないということを理解し、自由に出入りできるようにしている。夜間、職員が一人になる時間帯は防犯上施錠しているがそれ以外は施錠せず、玄関にセンサーを設置。 | 2匹の猫を職員の希望によりホーム内で飼っている。猫の出入りでは気が付いた利用者が、戸の錠を開け閉めしている。日常会話の中でも、行動を抑えるような声掛けは行わないよう話し合いが持たれている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 平成26年3月に市内グループホーム合同研修として、地域包括支援センターの職員から研修を受けている。虐待になるような言動に注意している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 以前、権利擁護について研修を受けているが、その後に活用できていない。入所以前から日常生活自立支援事業を利用されている方はおり、支援員さんとのお話はしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 報酬改定時には説明し同意得ている。その都度、分からない点はお話していただき、説明している。 | | |
| 10 | （6） | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者様から散歩に行きたい、歩きたい、中にばかり居たくないときちんと話してくれたり、入浴時の職員の対応についてお話していただいたりしていることはすぐに、職員間で共有し、生かしいる。また、ご家族様からもお話を聞けるように面会時に会話するようにしている。 | 利用者から意見が聞かれた時は、すぐに対応を検討し、改善している。家族の面会時にも声掛けを行い、家族の意見を聞けるように努め、タブレット（電子端末）を活用し、全職員に申し送りできるよう取り組んでいる。 | |
| 11 | （7） | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 猫をホームで飼うこと等、職員側から出した提案に対し、理解が得られることで、職員はやる気が出ている。休みの確保も出来ており、モチベーションは下がらず業務できていることからサービス向上にも目を向けれる。 | 職員の会話の中から聞き取り、身体機能の低下している利用者に手すりや耐圧分散マットの購入や、空気清浄機付き加湿器を購入している。また、福祉避難所の指定を受けた事で、一部補助金によりガスを使った発電機を購入し、電気が止まった時に備えている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 理事長から直接、頑張っていることの評価をいただいたり、又、課題提起もしていただき、やりがいはある。研修にも積極的に出していただき、そのことも地域に目を向けるきっかけになったりしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員はそれぞれ担当の係りがあり、自分で考えて行動し、他の職員にも自分の意見を言えるようになってほしいと日々、関わるようにしている。徐々に自分で考え、意見を言えるようになってきていると感じる。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市内グループホーム同士での合同研修や交流会。それから、法人内小規模事業所交流会を開催。自分達の事業所だけでなく、他の事業所の職員の話を聞いたり、自分の悩みをお話することで、やる気につながっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | お互いに不安な状態にあることから、きちんとお話を聞き、自宅での様子を把握することを大事にしている。ご本人が納得できるまで、同じ質問に付き合ったり、生活してみて、環境が変わったことで、落ちつかな様子ある時には、どのように関わったらよいか、ご家族に相談して意見を聞いたりしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 自宅から離れて生活していくことへの不安を受け止め、ご家族のお話を聞いて対応するようにしている。利用者様の様子を毎日、報告したりして安心してもらっている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談に来た方からは、現在の様子を聞き、ホームでの現状をお伝えして上で、部屋が空いた時の進め方等お伝えしている。それから、入院等で一時的にお部屋が空いた時に短期入所できることも伝え、ご連絡することもお伝えしている。又、同法人の老健を紹介したりもしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 食事の準備、片付け、掃除に洗濯干しやたたみ方と、無理のないように出来ることはしていただき、一緒に生活している。何もしないでいるのは嫌だど手伝ってくれている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族の思いを尊重し、ケアに一緒に関わっている。トイレ介助、入浴等、積極的に関わってくれていることで、利用者様もご家族を忘れずにおり、ご家族の顔を見ると、表情が良くなる。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 今まで利用してきた馴染みの床屋がある方は継続している。又、仕事していたときの仲間が尋ねてきてお話してゆっくり過ごしていることもある。 | 以前利用者が勤めていた仕事仲間（保育士・大工）の方が訪ねて来ている。遠野駅で仕事をしていた利用者の希望により、駅の周辺に出かけている。また、家に帰りたいと希望がある時は、ご家族に協力していただいている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者様の相性の良し悪しは把握できており、気が合う方で過ごせる環境にしている。又、落ち着かない方が居るときは仲の良い利用者様と一緒に入れるようにしたりしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入所していた方が自宅に退所され、現在はホームの通所を利用している。そして、地域のサロンにも参加し、地域の方々との関係も切れないようにしている。ご家族も慣れたところで安心とお話ししてくれている。 | | |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| 23 | （9） | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者様が話されていたことは記録し、共有している。そして、そのことをケアの関わりに生かすようにしている。話されていたこと以外でも、職員の関わりからの反応も記録し、その方はどのようにしてほいかったのか共有しているようにしている。 | タブレット（電子端末）に利用者の言葉を記録し、それに対する職員の対応についても記録している。よくできた事や、また悪い時も記録し全職員が確認することで、共通した支援に取り組んでいる。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所する時点で聞き取ったことは皆で確認している。その後、生活していく中で見えてきたことに関して、ご家族に聞き、ケアに生かしていくようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日によって、又は、時間によって心身状態にムラがある利湯者様はその時にあった対応をして、無理にならない生活をしていただいている。一人で移乗が出来ない、起き上がりが出来ないと思っていた方でも、声のかけ方の工夫だけで出来ることが分かったりするので、出来ないと決め付けずに出来るようにする為にはどうしたら良いか考えるようにしている。 | | |
| 26 | （10） | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | カンファレンスを開催し、それぞれの意見を確認し、関わりに生かしている。又、ご家族から、ご意見いただき、取り入れている。 | 月1回カンファレンスの中で、話し合いが行われている。ご家族が来られた時や、遠方のご家族にはメールや電話で要望を確認している。毎日30分位の散歩の希望や、出来るだけ薬を自己管理できるよう支援してほしいとの家族の要望に応えた支援を工夫し実行している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護システムになってから、記録の中で、情報共有しなければならないことは気付きとして、確認しやすくなっている。そして、、それを生かして関わりやすくなっている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 地域サロンに参加して、体操したり、バスハイクに出かけたりし、気分転換している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 図書館に行き、見たい本を借りてきている。その時に、博物館で無料で鑑賞できる企画展がある時には見てきている。地域サロンも地域の資源として参加している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所以前からのかかりつけ医で継続している。そのことで、ドクターとの関係性も保持できている。その中で訪問診療に切り替えできるかたは訪問診療に変更し、ゆっくりと診察していただき、体調を報告できている。訪問診療を受けている利用者様からも良い反応が聞けている。 | 家族による対応で通院している利用者や、必要により職員も同行している利用者もいる。タブレット（電子端末）の活用により、バイタルや排泄の記録等利用者の日頃の様子がすぐに引き出せ、訪問診療の時も必要な情報を伝えることができている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | ホームに看護士の配置はなく、現在は訪問看護との連携もない。以前、訪問看護が入っていた方が居るときには様子を報告し、指示を受けていた。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院した利用者様がいるときには、様子確認に面会に行き、そして看護士からお話を聞いてきている。長期に入院することは望ましくないと思っているので、治療が終了次第、早めに戻ってこれるようにしている。又、戻ってきてからのケアの仕方も検討している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 看取りという部分にまだ、消極的な部分があり、ご家族との話し合いにはいたっていない。数年前に看取りをしたケースもあり。そのことの振り返りからはじめて、職員間での看取りへの意識から入っていきたいと考えている。そして、ご家族と重度化、終末期の方向性を話しあっていきたい。 | 来年度より医療連携加算が算定できるよう取り組みを予定している。市の研修に参加し、今後も相談していきたい。 | 本人や家族から早い段階で重度化や終末期の意向を確認し、また、グループホームとしてできる事できない事を説明する事で、共通認識のもとに看取りへの対応が行われるよう、指針の整備に取り組むことをを期待したい。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 2年に1回、同法人の老健とおので、救急救命の講習は受けている。急変を逃さず気付けるように日頃から利用者様をよく様子観察しているようにしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害対策として、停電時のガス発電機を設置。他、ストーブや、毛布等の確保をしている。避難訓練については近所の方々と連携してできるように一緒に訓練をするようにしている。 | 昨年7月に暗くなってから避難訓練が行われた。2次避難は自治会館、3次避難は隣接している同法人の老健施設が予定されている。老健より職員が車椅子を持って駆けつける事となっている。緊急時のベルを外に取り付け近隣に知らせる事ができるよう設置している。 | 2次災害予防のため、協力していただける方々には役割を説明し、速やかな対応ができるよう周知を図る。また、避難訓練に近隣の方々が多く参加していただけるよう今後の取り組みに期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援** | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | トイレやお部屋に入る時はノックをし、声をかけて入室するようにしている。個々にあった声かけを意識しており、馴れ合いのような声かけにならないように注意している。 | 脱衣所に衝立を置き、職員が用事で脱衣所に入ってきても羞恥心を感じないですむよう配慮している。利用者の理解力に合わせた声掛けを行い、必要なく大声にならないよう努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 1対1の散歩の時に思いやお話をゆっくりと聞いたり、日常の家事をしながらの会話の中からも好みを聞いたりと、何気ない会話から思いや希望を聞き取れるようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 起きたい気持ちになってから起きてもらう、休んでいたい時にはレク等、強要しない等、その方の気持ちに沿って職員は関わるようにしている。そして、職員間でも情報共有している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人の希望を聞いて、洋服を選んだり、美容院さんが来た時に本人の希望を聞いて髪の色を変えたりしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の下準備から盛り付け、片付けと全てにおいて、利用者様には関わっていただいている。盛り付けをしながら、「美味しそうだな」と話していたり、出来ないと思っている利用者様でも実際、してみると出来ることで、自信にもなっている時もある。 | 野菜を切ったり・茶碗洗い・下膳・お盆拭きなど、それぞれできる事を見つけて手伝って頂いている。「ラーメンが食べたい」と希望があり、煮込みラーメンを作った。また、誕生会やバレンタインデー・雛まつりなどその時々に楽しみが持てるよう配慮している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | お茶を飲みたがらない方には、お茶ゼリーにして、提供したり、カフェオレ等、お茶以外で好む飲み物で対応している。又、コップを変えることで飲んだりもするので、試行しながた行っている。尿量や回数も確認し、尿量が少ない方には、更に水分の促がししている。好き嫌いが激しい方には、好むものを多めにつけてみたり、野菜を混ぜたご飯にしたりしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、全員の口腔ケアはしていないが、1日1回は介助に入るようにしている。他、自分で出来る方には、声かけし、行っていただいている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 日中はトイレで排泄が出来るように声かけ誘導し、排便を促がすように気張っていただいている。腸閉塞の危険がある方は、トイレ内にカレンダーを張り、排便のチェックをし、下剤の調整している。又、カンファレンスでその方の排泄パターンを話し合いし、トイレ誘導のタイミングを統一したりし、その方にあった支援になるようにしている。 | 腸閉塞の心配がある利用者は、排便の時間や量を記録し、2日出ない時は3日目に下剤を服薬している。利用者個々の排泄パターンを把握し、負担とならないよう利用者のパターンに合わせ誘導している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 牛乳やヤクルトを毎日飲むことで排便が促がされるようにしている方もおり、出来るだけ下剤に頼らないようにしている。そして、水分も多くとるようにしたり、適度に運動できるようにしている。腸閉塞に注意しなければいけない方については散歩もしっかりしてトイレでも気張ってもらい排便促がしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 脱衣場にスクリーンを置き、職員が出入りしても見えないようにしている。入浴のお誘いし、断わられたら無理強いはしていないが、長期に入っていない方に関しては、時間を空けて声かけしてみたりと、入浴したいと思っていただけるようにしている。曜日固定して入浴の声かけはしていない。入浴後、疲労感が酷い利用者様は入浴後にゆっくりと休める時間帯に入浴のお誘いをするようにしている。 | 入浴の拒否がある利用者は、時間を変えて何度か声を掛けたり、場所を変え居室で声を掛ける等工夫している。同性介助の希望がある利用者は4名で、希望に沿った入浴の対応が行われている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 不眠が続いている方の自宅での布団の状態を聞き、重みを感じながら寝る方であれば、掛け物を重くしてみたりしている。日中に散歩に行き、運動を取り入れたり、寒い時期であれば、寝る前に湯たんぽ使用してみたりしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 誤薬、飲み忘れがないようにチェック表を作り、確認しながら行っている。利用者様がどのような薬を飲んでいるのか把握し、状態変化の確認をするようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者の好むことを把握し、貼り絵、塗り絵、体を動かすレク等している。細かい作業が好きな方がおり、モヤシの芽とり等、好きだとお話していただけることをお願いしている。本を読むことが好きな方と、図書館に行き、本を借りてきたりしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 散歩に行きたい、その辺に行ってきたいとお話しある利用者様の希望の時間に出来るだけ散歩に行っている。地域サロンのかかしの会でのバスハイクで、温泉に行ってきたりし、地域の方たちと外出し、気分転換している。 | 日課としてごみ出しを手伝っていただきながら散歩している利用者や、また、日に何度も出かけたがる利用者もできる限り対応しているが、時には説明し時間をずらして出かけている。年に2回皆で温泉に出かけたり、夏場は利用者と職員1対1で市内にアイスクリームを食べに出かけている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | バスハイクや外出先で、欲しいものを購入したり、アイスを食べたりし、使用している。現在、お小遣いを持っている方は二名くらいではあるが、お金を手元に持っていることで安心している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙のやり取りをしている方がいないが、気になることがあり、気持ちが落ちつかない方はご家族に電話し、お話している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節にあった壁絵をしたり、花を飾ったりしている。又、色々な音で賑やかになり過ぎないように、昼寝の時間は電気を消して、テレビも消してメリハリをつけたりしている。談話スペースから外の景色も見ることが出来るので、季節の変化が感じ取れる。 | 吊るし雛やお雛様の壁掛け・赤富士の額等が飾られ季節感を醸し出している。また、加湿器の設置により、乾燥を予防している。被災地から貰われてきた2匹の猫がゆったりそれぞれ好きな場所で過ごし、利用者や職員の癒しとなっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テレビ前のソファーは共用空間にあっても他の方々が視界に入らず、外を眺めることも出来てゆっくりと過ごせるような配置になっている。食事の席は気の合う方々で同じテーブルになるようにしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自宅からタンスや椅子を持ってきている方、テレビを持ってきてお部屋で見ている方、そして、使いやすいよに配置して、弱視の方でも動きやすいようにしていたりと、それぞれの好みにあったお部屋になるようにしている。 | お位牌や、テレビ・ヘッドフォン・ハンガーラック・箪笥・椅子等の持ち込みがあり、それぞれ利用者の個性の感じられる居室となっている。また、身体機能の低下している利用者には手すりや耐圧分散マットをグループホームで購入し、床ずれや転倒を予防した生活できるよう対応している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 廊下に物や車椅子を置かないようにして危険がないようにしている。トイレの場所が分かりやすいように表示もしている。 | | |